「授業備品」N023 H.28.10.1「研究協議会のマナー」（６県に配布中）

１　研究授業参観前のマナー

ただ漠然と授業を見るだけでなく、事前準備、確認ポイント等があるので注意する。

(1)研究授業参観の約束

授業開始３分前には教室に入る。授業が始まる前の子供たちの雰囲気，学習用具の整頓の様子、学級掲示物、学習形態、学習準備状況、学習経過模造紙、子供の学習ノート、子供への集中のさせ方等、学ぶべきことが多々ある。

(2)服装に注意

参観者は多くを学ぶ気持ちで授業者は自身の指導を振り返る気持ちで研究授業に向かうとよい。提案する授業者やご指導をいただく講師の先生に失礼がないよう、開始時刻前に会場に入る。尚、教室には奥から詰めて入る。スーツで参加するのは、当然のことである。正しい服装は、常に心がける。

２　授業中のマナー

(1)授業記録を取りながら参観する

研究協議会では、授業時の「教師の発問指示・説明」「教師の働きかけ」「児童の反応」といった点から，それぞれのグループで分析をすることになる。そのため授業記録は必ず取るようにする。

ア、授業を時系列で記録していく。

イ、授業中の教師の指示・説明・発問等働きかけを「T」で記録する。

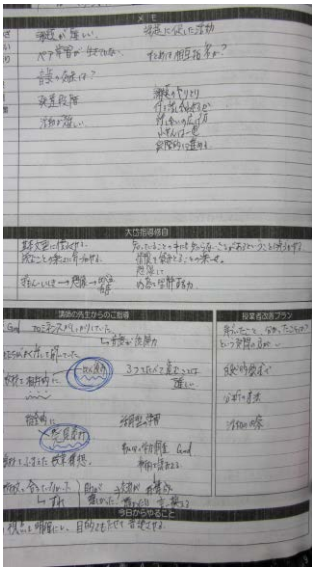
ウ、授業中の児童の反応（発言，つぶやき，行動）等を「C」で記録する。

エ、目に見える行動記録だけでなく、学習の雰囲気等、見えない部分も記録する。

オ、自分なりの成果・課題・改善策を書く

(2)付箋書きのマナー

経過	学習活動	教師の働きかけと子供の反応で授業を見とる力を付ける。（刺激と反応）
問い	T（教師） C（子供）	○成果▷課題●改善 ○～～～～～～。 ▷～～～～～～。 ●～～～～～～。



①付箋は具体的に分かりやすく書く

課題を書く付箋に「教師のまとめの仕方」と書いても、何を意味しているかが分からない。そこで分かりやすく書く。

②全員による付箋書き

授業の視点に沿って書く。回を重ねると短時間でたくさんの意見を書けるようになる。参加者全員が書くのがマナーだ。

３　研究協議中のマナー

①一人 30 秒以内で端的に話す

話が長くなるのが教師の常識だ。しかし、自分が話せば話すほど，他の人の発言機会を奪うことになる。全員が意見表明をし、考え合う協議会とするために、一人 30 秒以内で話す。

②自分の話す順番を守る

話したいことがあると，他の人の順番に割り込んで話してしまう人がいる。ワークショップの協議会は、全員が意見を出し合うことが大前提であるので自分の順番がくるまで待つ。じっくり他の人の考えを聞きながら，自分の考えを発表するとよい。

③出された意見は否定しない

出された意見は、どんな意見も否定しない。一つの考えとして受け止める。「どんな考えも出してよい」から若手教師も積極的に発言することができる。どうしても反論がある場合は、「否定」ではなく「指摘」をし、全体の議論にもっていく。なお、ワークショップは、いろいろな意見を出し合う会だ。まとめは不要である。

４　研究協議会後のマナー（お礼状）

ワークショップ協議会と講師の先生のご指導を受けた後、授業者はすぐに「課題論文」を作成するとよい。研究協議会から学んだこと、これからの自分の授業に生かしていくこと等を文章化する。それを、当日お世話になった指導主事や仲間の教師に配布するとよい。お礼を込める「課題論文」を送るのは、社会人としての常識だからだ。「課題論文」は、高知県越知町教育委員会ＨＰ内の「授業備品」にあるので参考にして欲しい。